



戦後八十年特別企画 前進座公演

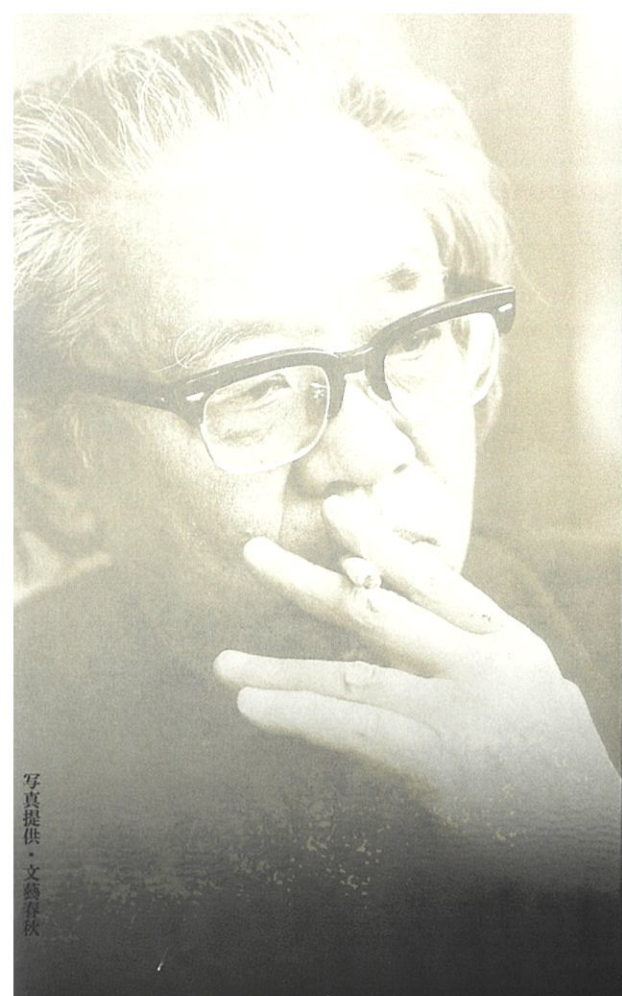
北九州市立松本清張記念館プロデュース

松本清張II原作 鈴木幹二II脚色・演出

松本清張朗読劇シリーズ

―平和といのち―

『青春の彷徨』 『砂の器』



写真提供・文藝春秋



中嶋宏太郎



浜名実貴



柳生啓介

2025年7月25日(金) 14:00 開演 / 18:30 開演
(13:30 開場) (18:00 開場)

高知県立美術館ホール

チケット料金(税込) 前売 3,000円/当日 3,500円 全席自由席

主催：前進座松本清張朗読劇実行委員会

戦後八十年特別企画 前進座公演

北九州市立松本清張記念館プロデュース

松本清張＝原作 鈴木幹二＝脚色・演出

松本清張 朗読劇シリーズ —平和といのち— 『青春の彷徨』『砂の器』



柳生啓介



浜名実貴



中嶋宏太郎

『青春の彷徨』

昭和二十八年作。恋人同士の若い二人が、「美しい死」に憧れ、阿蘇や耶馬溪を彷徨い歩く。やがて悲哀と皮肉に満ちた結末が……。
どこか心地よい初期短編の佳編。

『砂の器』

昭和三十五年作。国鉄蒲田駅で男の扼殺死体が発見された。目撃情報から「カメダ」と云う言葉が浮かび上がる。だが捜査は難航し、ついに事件は迷宮入りかと思われたある日、被害者の養子だという人間が現れ……。やがて刑事たちは、一人の才能溢れる若者の、人生の深淵を暴き始める。
松本清張の代表作。

【前進座と松本清張】

前進座は、一九三二年（昭和六年）、河原崎長十郎・村翫右衛門・河原崎国太郎らの青年歌舞伎俳優により創立、本年二〇二五年五月に九十四周年を迎える。歌舞伎作品のほか、歴史劇、現代劇、青少年向け音楽劇と幅広い舞台を創造し、大都市公演・全国巡演を展開している。清張は昭和初期に映画『人情紙風船』などを観て以来、前進座の熱心なファンとなった。「翫右衛門を観る会」をつくり、さらに一九六八年には大佛次郎・海音寺潮五郎・井上靖・水上勉と五人で発起人となり、前進座を応援し次代を育てる「矢の会」を発足した。前進座での清張作品の上演は七作（戯曲三作、原作劇化四作）。また翫右衛門死去の際は弔辞も読んでいた（翫右衛門最後の舞台は京都南座での清張原作『左の腕』であった）。そのような縁から、二〇〇三年より北九州市立松本清張記念館プロデュースで「松本清張朗読劇シリーズ」がスタート。毎年清張作品から一作を選んで前進座が劇化。今日までに二十一作品のレパートリーとなっている。

2025年7月25日(金) 14:00 開演 / 18:30 開演
(13:30 開場) (18:00 開場)

高知県立美術館ホール (高知県高知市高須 353-2)

チケット料金(税込) 前売 3,000円/当日 3,500円 全席自由席

お問合せ・お申込み: 前進座松本清張朗読劇実行委員会

事務局 高知市城北町10-2 新日本婦人の会高知市支部内

TEL: 088-822-6588

090-6287-2228(胡摩崎)

※高知県立美術館・高知市民劇場でもチケットを取り扱っています。